

日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会 水化学管理分科会
第12回 HWC標準作業会 議事録

1. 日時 : 平成23年3月4日(金) 13:30~17:00
2. 場所 : 東京大学 工学部 8号館 2階 222会議室
3. 出席者 : (敬称略)
(委員) 内田、高木、和田、小野、上山(寺門代理)、久宗
(常時参加者) 北島、太田、埴
4. 配布資料 :
 - 12-0 第12回 HWC標準作業会 議事次第
 - 12-1 第11回 HWC標準作業会 議事録(案)
 - 12-2 「HWC標準」の構成と目次案
 - 12-3 ラジオリシスモデルのV&Vについて
 - 12-4 HWC作業会資料<評価手順イメージ>
5. 議事概要 :
 - (1) 出席者の確認
出席者の確認を行い、委員8名中6名出席しており、必要な定足数を満足していることを確認した。
 - (2) 前回議事録確認
久宗幹事より、資料12-1「第11回 HWC標準作業会 議事録(案)」の説明があり原案どおり承認された。
 - (3) HWC標準の作成について
HWC標準の作成を検討する上で、安全性を考慮した場合には多くのマージンを見込むため、真値からの偏差が大きくなることが懸念される。
一方、原子力学会標準「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準」における計算は、V&V(検証: Verification と妥当性確認: Validation)法で評価することにより、シミュレーション結果の信頼性を具体的に確立する手法として用いている。
このため、HWC標準の作成においても、V&V法を用いて概念モデルを実験データにより検証し妥当性を確認することとした。
また、V&V法においては、品質保証(QMS)に従うことが重要であり、標準本文に「QMSに従わなければならない」と記載する必要がある。
今後の作業会において、ラジオリシスおよびECP評価における検証: Verification と妥当性確認: Validation を踏まえた標準案を作成し、V&V法の専門家のレビューを受けることとした。
なお、必要に応じてV&V法の専門家をHWC標準作業会の委員に加えることを検討することとした。
 - (4) その他
次回(第13回HWC標準作業会)は、4月26日(火)14:00~17:00に原電本店2階の第4会議室で開催することとした。

以上